

第4章

幼保連携型認定こども園 教育・保育要領を踏まえた 就学前教育の充実

(1) 全体的な計画の作成

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則では、幼保連携型認定こども園の「全体的な計画」の作成について示されています。全体的な計画は、保育所保育指針における保育課程、幼稚園教育要領における教育課程に当たります。

また、全体的な計画の作成に当たっては、園児一人一人にとって園生活がよりよいものとなるよう、園や地域等の人的・物的な環境の条件等を踏まえるとともに、それらを十分に生かして創意工夫をすることが求められています。

なお、第2章においては、0～2歳児の保育・教育課程について、保育所の生活（およそ午前7時から午後7時頃までの保育時間）を想定して作成しています。3～5歳児の保育・教育課程については、幼稚園の生活（およそ午前9時から午後2時頃までの保育時間）を想定して作成しています。

本章においては、平成23年3月に公表した就学前教育カリキュラムで示していなかった幼稚園及び幼保連携型認定こども園に在籍する3～5歳児の教育活動後（およそ午後2時以降）の保育について、指導計画例を作成しました。

(2) 一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育及び保育の工夫

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則では、幼保連携型認定こども園として特に配慮する事項として、「一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園児一人一人の状況に応じ、教育及び保育の内容やその展開について工夫をすること。特に、入園及び年度当初においては、家庭との連携の下、園児一人一人の生活の仕方やリズムに十分に配慮して一日の自然な生活の流れをつくり出していくようにすること。」が示されています。

本章では、教育活動後に保育を受ける子供について、「毎日、教育活動後も保育を受ける『長時間保育』の子供」と、「時々、教育活動後も保育を受ける『預かり保育』の子供」を想定しています。

また、3歳児4月当初の様々な集団生活経験の違いには、特別な配慮が必要であると考えました。

(3) 構成

(1) 及び (2) を踏まえて、次の構成で指導計画例を作成しました。

構 成	
○ 教育活動後の年間指導計画例（期ごと）	119 ページ～
※ 「長時間保育」と「預かり保育」について作成した。	
・ 3歳児Ⅰ期～Ⅴ期（Ⅰ期のみ、4月当初の指導計画例を四つの異なる集団生活経験ごとに作成した。）	120～129 ページ
・ 4歳児Ⅰ期～Ⅴ期	130～139 ページ
・ 5歳児Ⅰ期～Ⅴ期	140～149 ページ
○ 教育活動後の指導計画例（日ごと）	150 ページ～
・ 4月～5月	152・153 ページ
・ 6月～12月（7月～8月を除く）	154・155 ページ
・ 1月～3月	156・157 ページ
・ 長期休業期間中（7月～8月）	158～161 ページ
・ 運動会前の時期	162・163 ページ

現在、幼稚園においても、幼保連携型認定こども園においても、長時間保育や預かり保育、延長保育等のニーズが高まっています。本章で示した指導計画例は、幼保連携型認定こども園に限らず、全ての就学前教育施設において、指導計画等を立てる際の参考にできるように作成しました。

ただし、実際に各園で指導計画等を作成する際は、園児の心身の発達の実態、園の実態、家庭及び地域の実態等に即応した適切な指導計画を作成するために、全職員が協力し、創意工夫をすることが必要です。

【用語の説明】

本章では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説で使用されている用語を、次のように言い換えています。

- 「教育課程に係る教育時間の教育活動」
→ **教育活動**
- 「地域の実態や保護者の要請により教育を行う標準的な時間の終了後等に希望する者を対象に一時預かり事業などとして行う活動」
→ **預かり保育**
- 「保育を必要とする子どもに該当する園児の保育」
→ **長時間保育**

【設定の説明】

本章における指導計画例は、以下のような園の状況を想定し、作成しました。

- 教育活動後の年間指導計画例（期ごと）⇒ 119 ページ～149 ページ
 - ・ 0歳児から5歳児までが在籍する幼保連携型認定こども園
 - ・ 教育課程に係る保育については、3年保育
 - ・ 教育活動終了後の保育の状況 … 午前9時～午後2時までの教育活動の後、「預かり保育」と「長時間保育」を別プログラムにて実施
 - ・ 異年齢（3～5歳児）混合保育
- 教育活動後の指導計画例（日ごと）⇒ 150 ページ～163 ページ
 - ・ 0歳児から5歳児までが在籍する幼保連携型認定こども園
 - ・ 教育課程に係る保育については、3年保育
 - ・ 教育活動終了後の保育の状況 … 午前9時～午後2時までの教育活動の後、「預かり保育」と「長時間保育」を同プログラムにて実施
 - ・ 異年齢（3～5歳児）混合保育

(4) 教育活動後の年間指導計画例 (期ごと)

<資料の見方>

・「預かり保育」の列です。縦に見ます。
※ 「預かり保育」は、日によって利用する子供が変わるという設定です。

・「長時間保育」の列です。縦に見ます。
※ 「長時間保育」は、毎日利用する子供が固定されているという設定です。

・「保育者の援助」について記載しています。
※ 「預かり保育」と「長時間保育」の共通事項は、枠を一つにして、記号を黒色で塗りつぶして記載しています。
「環境構成」、「保育者間の連携」、「保護者との連携」も同様です。

・教育時間後の「ねらい」を記載しています。

幼児 I期 (4月~5月)		預かり保育	長時間保育	預かり保育	長時間保育
ねらい	● 生活の流れや仕方が分り、安心して過ごします。	● 年長になった喜びや自信を味わいながら、園生活を楽しむ。	● 積極的に戸外へ出て、全身を使って遊び、春の自然に触れる。	★ 5歳児になり張り切って生活する姿を見守るとともに、甘える姿も受け止める。	★ 活動を通して一人一人との触れ合いを大切に、信頼関係を育てていく。
	● 自分の好きな遊びや興味をもった事柄を見つけてかかわり、楽しむ。	● 友達と想いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分り、安心して過ごす。	● 友達と一緒に全身を使って様々な遊びを楽しむ。	★ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られた時は、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。	★ 生活の流れの切り換えについて、幼児の様子を見ながら声掛けしたり、手助けしたりすることで、自分でできることは自分でできるように援助し、幼児が自分でできた喜びを味わえるようにする。
内容・活動形態	● 保育者や友達と仲たがってかかわりを楽しむ。	● 友達の思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分り、安心して過ごす。	● 友達の思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分り、安心して過ごす。	★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせて対応を心掛ける。	★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせて対応を心掛ける。
	● 自分の居場所を見付け、安心して過ごせる場所であることを知り、安心して過ごす。	● 生活や遊びの中にかかわり、安心して過ごす。	● 生活の流れや仕方が分り、積極的に行動する。	★ 預かり保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。	★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせて対応を心掛ける。
環境構成	● 生活や遊びの中にかかわり、安心して過ごす。	● 生活や遊びの中にかかわり、安心して過ごす。	● 生活や遊びの中にかかわり、安心して過ごす。	★ 一人一人の生活を見守り、自分でできるような援助をする。	★ 一人一人の生活を見守り、自分でできるような援助をする。
	● 遊びや場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。	● 遊びや場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。	● 遊びや場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。	★ 保育者が一緒に遊び、体を動かすことの楽しさを共有する。	★ 保育者が一緒に遊び、体を動かすことの楽しさを共有する。
保育者間の連携	● 預かり保育室で、気に入った玩具や遊びを見つけて、やりたい遊びを十分に楽しむ。	● 預かり保育室で、気に入った玩具や遊びを見つけて、やりたい遊びを十分に楽しむ。	● 預かり保育室で、気に入った玩具や遊びを見つけて、やりたい遊びを十分に楽しむ。	★ 一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、信頼関係を築き、情緒の安定を図る。	★ 一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、信頼関係を築き、情緒の安定を図る。
	● どの遊びができるかが分り、楽しみにする。	● どの遊びができるかが分り、楽しみにする。	● どの遊びができるかが分り、楽しみにする。	▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方(記入の方法、回収の方法など)について、年度当初に保育者間で共通理解する。	▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方(記入の方法、回収の方法など)について、年度当初に保育者間で共通理解する。
保護者との連携	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間をもち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。	▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間をもち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。
	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることを予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。	▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることを予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。
保護者との連携	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	▲ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者等に申し送りをする。	▲ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者等に申し送りをする。
	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	● 友達や保育者に分り、自分の思いや気持ちを伝えようとする。	■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる機会があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることを促す。	■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる機会があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることを促す。

・子供が経験する内容、活動等について記載しています。

・環境構成について記載しています。

・「保護者との連携」について示しています。園生活と家庭生活が連続していることを踏まえ、情報の共有等の重要事項について記載しています。

・「保育者間の連携」について示しています。教育活動の担当者から、教育時間後の担当者への引継の留意点等について記載しています。